

# 「平成 26 年度新入生の生活に関する調査」報告 - 入学後の学生生活の予定や不安、期待する学生支援に着目して -

望月由起・北澤泰子

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

## Report on “The research of the life of the new students of 2014” - Focusing on the plans and concerns of the students after entering university, and the support that they expect from the university-

Yuki MOCHIZUKI and Yasuko KITAZAWA

Ochanomizu University Student and Career Support Center

This paper reports the results of the research on the life of the new students of Ochanomizu University in 2014 and their guardians, focusing on their plans and concerns about campus life and expected support from the university, etc., in comparison with the results of a similar survey conducted in the previous year.

The main findings are below: 1) As in the previous year, many students are planning to commute to university from the Tokyo Metropolitan area, and over 80% of the students are paying a monthly rent of “50,000 to less than 100,000 yen” for their apartments. 2) The items on which the students intend to place emphasis in their first year at university are study, exchange with friends and activities in clubs and circles, and their concerns are classes and credits, human relationships, and their career paths and future, while their guardians are concerned about their career paths and future, health and human relationships. 3) As in the previous year, both students and their guardians expect support especially for career paths after graduation. 4) Compared with the data of the past three years, it is found that this year the freshmen’s recognition of the scholarship and their parents’ recognition of the scholarship and their wishes on the scholarship are decreased. It’s also found that the freshmen and their parents’ recognitions concerning the dormitory are promoted.

**keywords :** campus life, career support, scholarship, dormitory

はじめに

る。

お茶の水女子大学、学生・キャリア支援センター（学生生活支援部門）では、大学生生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることにより、学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するために、平成 23 年度より学部新入生とその保護者を対象に「新入生の生活に関する調査」を実施している。

本稿では、平成 26 年度新入生を対象とした調査の結果について、前年度調査の結果との比較も行いながら、入学後の学生生活の予定や不安、期待する学生支援に着目して報告する。本学が目指す統合型学生支援のあり方や方向性を検討する上での示唆を得るために、経済的・生活支援に対する希望については、家庭の経済状況とからめての分析も加えることとす

### 調査の概要

#### ・調査目的：

平成 26 年度の本学（学部）入学予定者の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。

具体的には、下記 4 点を中心とする。

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業

を改善するための基礎資料とする。

4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

・調査時期:2014 年 3 月

・調査方法:

郵送による送付・返送。一般入試合格者(および保護者)に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。その他の方法での合格者(および保護者)に対しては、別途、調査時期に、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

・調査分析対象:

「新入生を対象とした調査(以降、新入生調査とする)」

平成 26 年度学部入学 489 名。有効回答数 444 名(入学者のうち 90.7%)。

「新入生の保護者を対象とした調査(以降、新入生保護者調査とする)」

平成 26 年度学部入学者の保護者 489 名。有効回答数 444 名(入学者の保護者のうち 90.7%)。

いずれの調査も、返送者のうち分析許可を得ることができなかった者は分析対象から除いている。

・調査内容:

大学入学までの進路選択・決定、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待(以上は新入生自身への調査)、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待(以上は新入生の保護者への調査)など多岐にわたっている。

#### 入学後の学生生活の予定

まず本学新入生の大学入学後の学生生活の予定について、「大学入学後の居住予定の都道府県」「大学入学後の住居の予定」「1 か月の家賃の予算」「1 か月の仕

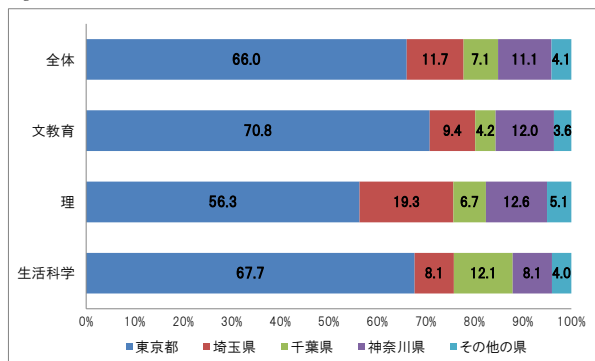


Figure1 大学入学後に居住予定の都道府県

送り予定額」「大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動」「授業料の負担予定」の側面から、新入生調査に基づいて示していく。

#### 大学入学後に居住予定の都道府県

Figure1 は、大学入学後に居住予定の都道府県を尋ね、本学の所在地である「東京都」、隣接している「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」、「その他の県」別に示した結果である。

全体でみると、昨年度同様、「東京都」が 66.0% と最も高く、「埼玉県」「神奈川県」「千葉県」がそれに続いている。

学部別にみると、理学部では、他学部より「東京都」が 10 ポイント以上も低く、「埼玉県」が 10 ポイント程度高い結果も示されている。

これらの傾向は、平成 25 年度新入生でも同様に示されている(お茶の水女子大学 2013, P13 参照)。

#### 大学入学後の住居の予定

Figure2 は、大学入学後に予定している住居について、「実家」「実家以外の賃貸アパートやマンション」に加え、本学の学生寮である「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」「大学以外の寮」「その他」の中から、複数回答可として尋ねた結果である。

全体でみると、「実家」が 48.5% と約半数を占めており、昨年度同様、「実家以外の賃貸アパートやマンション」、「国際学生宿舎」や「お茶大 SCC」といった本学の学生寮がそれに続いている。

学部別にみると、理学部では、「実家」の割合が他学部より 10 ポイント以上高い結果も示されている。

これらの傾向は、平成 25 年度新入生でも同様であっ

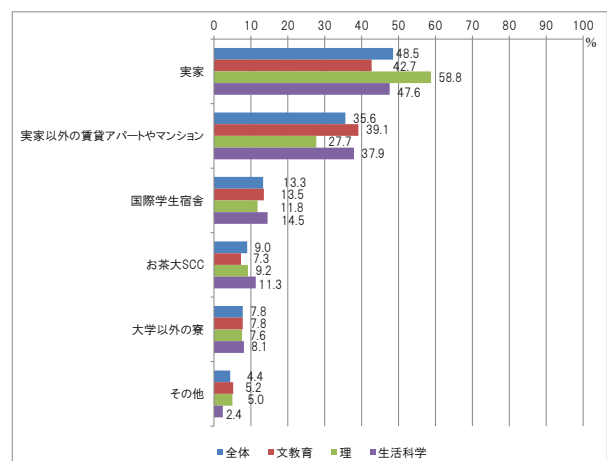


Figure2 大学入学後に予定している住居

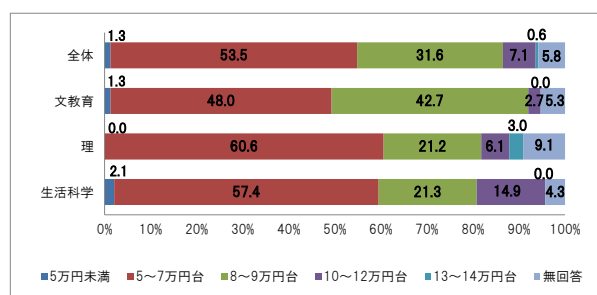


Figure3 1か月の家賃(管理費込み)の予算

た(お茶の水女子大学 2013,P13-14 参照)。

### 1か月の家賃(管理費込み)の予算

Figure3は、1か月の家賃(管理費込み)の予算(千円未満は四捨五入)について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。

全体でみると、「5-7万円」が53.5%と最も高く、「8-9万円」がそれに続いており、両者を合わせるとおよそ85%の学生が1か月の家賃として5-9万円を予定していることがわかる。平成25年度新入生でも、ほぼ同様であった(お茶の水女子大学 2013,P14 参照)。

学部別にみると、文教育学部では他の学部比べて「8-9万円」の割合が20ポイント以上も高い。一方で、生活科学部では「10-12万円」が14.9%であり、他の学部比べて明らかに高い。

### 1か月の仕送り予定額

Figure4は、1か月あたりの仕送り予定額(万円未満は四捨五入)について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。

全体でみると「5-7万円」が25.4%と最も高く、「10-12万円」「15万円以上」がそれに続く結果となっている。その一方で、「5万円未満」が8.9%、「仕送りはない」も7.2%を占めている。

なお「第48回 学生生活実態調査の概要報告」によれば(全国大学生生活協同組合連合会 2013)、下宿生のうち、仕送り「10万円以上」は30.3%であり、この

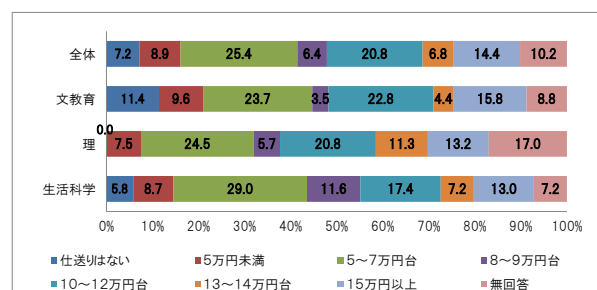


Figure4 1か月あたりの仕送り予定額

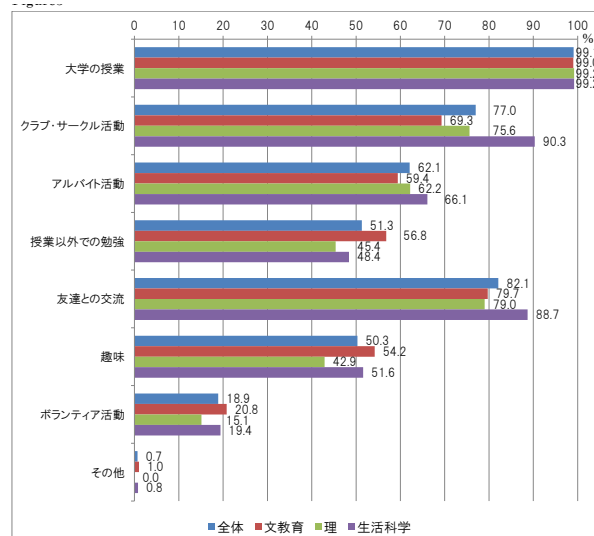


Figure5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

10年でほぼ半減している。その一方で、仕送り「0」の割合は10.0%と4年連続1割を超えており、5万円未満層も26.8%と増加傾向にある。

### 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

Figure5は、大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

「大学の授業」が最も高く、全体の99.1%に及んでおり、学部による差異もみられない。それに続いて、「友達との交流」82.1%、「クラブ・サークル活動」が77.0%と全体の7割を超えている。これらの傾向は、平成25年度新入生でも同様に示されている(お茶の水女子大学 2013,P15-16 参照)。「友達との交流」「クラブ・サークル活動」においては、生活科学部ではおよそ9割に及んでおり、他の学部比べても明らかに高い。

「アルバイト活動」は全体の62.1%であり、「友達との交流」「クラブ・サークル活動」に続いていますが、

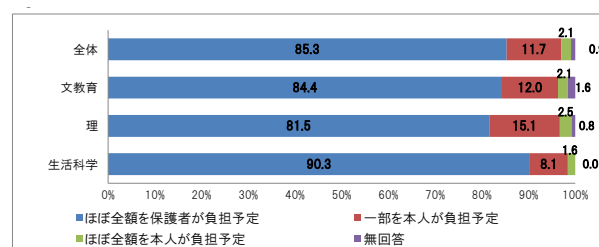


Figure6 授業料の負担予定

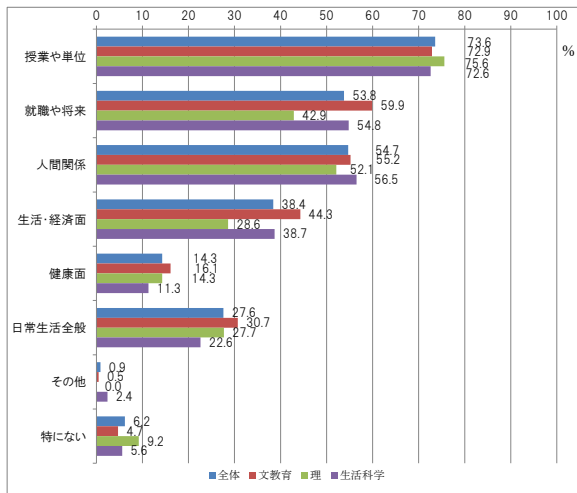


Figure7 新入生：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）

その理由についても今後は目を向けていく必要があるだろう。

#### 授業料の負担予定

Figure6 は、授業料の負担予定について、「ほぼ全額を保護者が負担予定」「一部を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」の中から尋ねた結果である。

「ほぼ全額を保護者が負担予定」が全体の 85.3% であるが、いずれの学部でも 8 割を超えており、生活科学部では 9 割を超えている。その一方で、「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」は極めて少なく、いずれの学部でも 2% 程度であった。

これらの傾向は、平成 25 年度新入生でもほぼ同様に示されている（お茶の水女子大学 2013,P17 参照）。

#### 入学後の学生生活への不安

では、本学の新入生やその保護者は、大学入学後の学生生活に対してどのような不安を抱えているのだろうか。

Figure7 および Figure8 は、全国大学生生活協同組合連合会が 2010 年に実施した「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学での学生生活が始まって心配なことについて、新入生調査および新入生保護者調査において、複数回答可として尋ねたものである。

まずは、新入生調査に基づき、新入生自身の結果をみていく。

「特になし」は全体の 6.2% であり、平成 25 年度新入生と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大

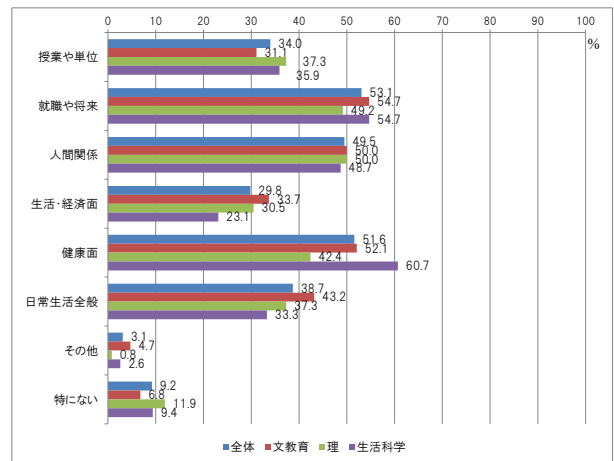


Figure8 保護者：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）

学 2013,P19-20 参照）。学部別にみると、理学部では 9.2% と高い。

不安や心配ごとの中身に目を向けると、「授業や単位」が全体の 73.6% と最も多く、「人間関係」「就職や将来」がそれに続いている。平成 24 年度新入生（お茶の水女子大学 2012,P26-27 参照）及び平成 25 年度新入生（お茶の水女子大学 2013,P19-20 参照）では、「授業や単位」に「就職や将来」が続いており、今年度新入生との違いがみられた。

また、「授業や単位」「人間関係」では、学部により大きな差異は示されていないが、「就職や将来」に関しては理学部が 10 ポイント以上他の学部よりも低い結果となっている。

同様に、新入生保護者調査に基づき、保護者の結果をみていく。

「特になし」は全体の 9.2% であり、平成 25 年度新入生の保護者と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2013,P37 参照）。ただし文教育学部と理学部では 5 ポイント程度の開きがみられる。

心配なことについては、「就職や将来」が全体の 53.1% と最も高く、「健康面」「人間関係」がそれに続く結果となっている。この結果は、平成 25 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013,P36-37 参照）。

学部別にみると、「就職や将来」「健康面」において理学部の低さが目立っている。

#### 期待する学生支援活動

上記のような学生生活の予定や不安をもつ本学の新入生や保護者は、大学に入学後、いかなる学生支援活動を大学に期待しているのだろうか。



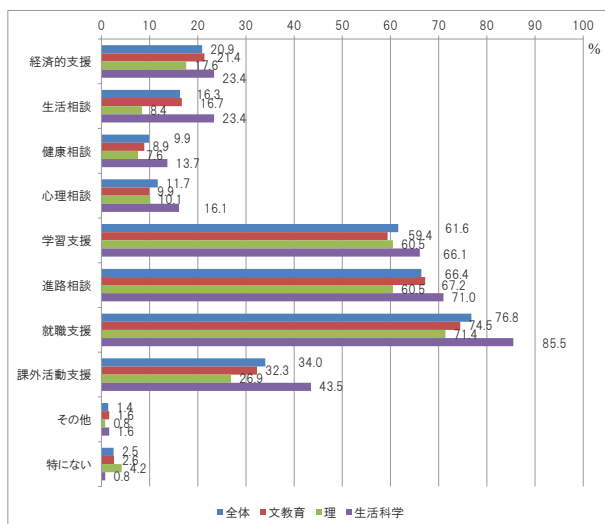


Figure9 新入生：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）

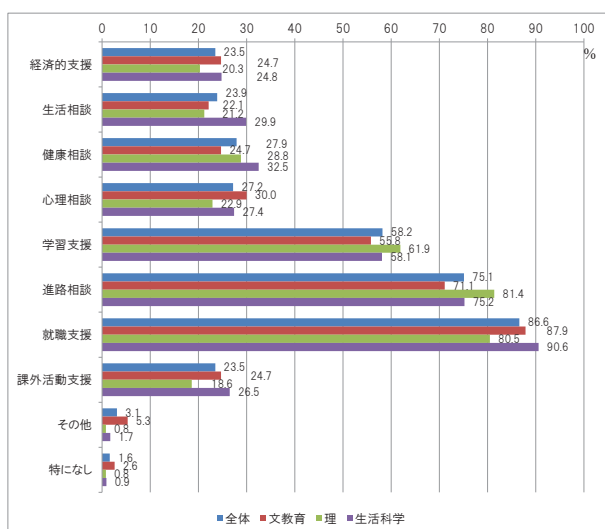


Figure10 保護者：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）

Figure9 および Figure10 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、新入生調査および新入生保護者調査において、複数回答可として尋ねたものである。

まずは、新入生調査に基づき、新入生自身の結果をみていく。

全体でみると、「就職支援」が76.8%と最も高く、「進路相談」「学習支援」が6割を超えてそれに続いている。これらの支援への期待は、平成25年度新入生では文教育学部での高さがいずれでも目立っていたが（お茶の水女子大学2013,P21 参照）、今年度新入生では生活科学部での高さがいずれにおいても目立つ結果となった。

同様に、新入生保護者調査に基づき、保護者の結果

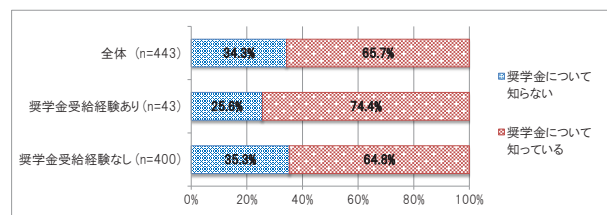


Figure11 保護者：奨学金受給経験と奨学金の希望

をみていく。

「就職支援」が全体の86.6%で最も高く、中でも、文教育学部や生活科学部ではおよそ9割に達している。「進路相談」「学習支援」の割合は6割を超え、それに続いているが、昨年度も同様の傾向がみられた。

「就職支援」が全体の86.6%で最も高く、文教育学部や生活科学部ではおよそ9割に達している。「進路相談」「学習支援」がそれに続くが、平成25年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学2013,P37-38 参照）。

学部別にみると、理学部では「就職支援」は80.5%と他の学部より低い、「進路相談」は81.4%と他の学部より高く、「就職支援」よりもわずかなではあるが高い結果となっている。

#### 奨学金の希望

まずは、経済的支援として「奨学金」に焦点をあて、その希望状況について、「受給経験」「制度の認知」「世帯年収」との関連からみていく。

過去に奨学金を受給した経験がある者とないない者とで、希望の有無に違いがあるかを調べた結果が Figure11 である。

その結果、全体では、40.2%の保護者が大学奨学金を希望していることがわかった。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金を希望する割合が高く、これまでに奨学金を受給した経験がない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。この傾向は前年度調査でも同様に示されている。（お茶の水女子大学2013,P.43）しかし、これまでに奨学金を受給した経験のある者で、大学奨学金を希望する者の割合は、昨年度が65.6%だったのに対して、今年度は57.8%と少なくなっている。これは一昨年（80.6%）と比べ、徐々に少なくなっていることがわかる。

続いて、奨学金の認知と希望の有無に関連があるかを調べた結果が Figure12 である。

その結果、奨学金について認知している場合は、奨

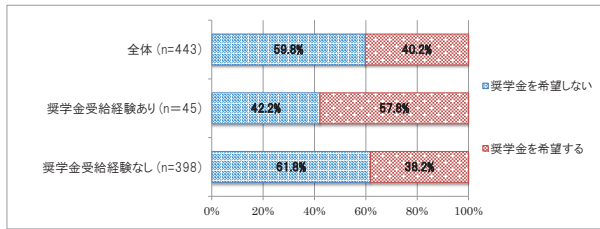


Figure12 保護者：奨学金の認知と奨学金の希望

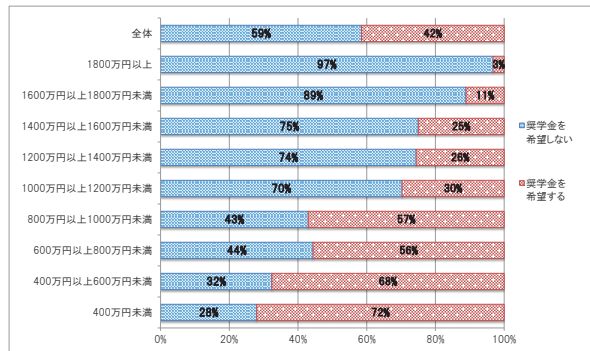


Figure13 保護者：世帯年収と奨学金の希望

学金を希望する割合が高く、奨学金について認知していない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。この傾向は前年度調査でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013,P43）。

続いて、世帯年収と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べた結果が Figure13 である。

その結果、前年度調査と同様に、世帯年収が低い場合は、奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が高い場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。

#### 奨学金について過年度との比較

新入生の奨学金の受給経験について、過年度と比較したものが Figure14 である。今年度は「受給経験あり」9.8%、「受給経験なし」90.2%となっており、昨年度と比べて奨学金の受給経験がある者の割合は 3.6 ポイント減少していることがわかった。過去 3 年と比較した場合、昨年度は受給経験のある者が 10% を超えていたが、それ以前は今年度と同様に 10% 未満であることがわかった。

続いて保護者の奨学金の認知と奨学金の希望について、過年度と比較したものが Figure15 と Figure16 である。奨学金について認知している割合は、毎年 75% 前後の割合で認知されていることがわかる。これは質問票に並べられている奨学金に関して、一つでも○をつけた者を「知っている」としているため、個

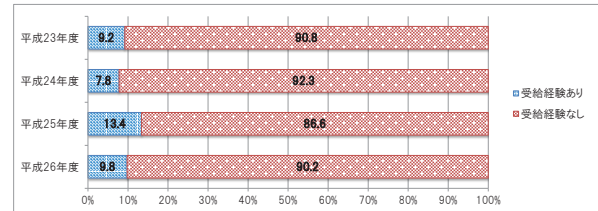


Figure14: 新入生の奨学金受給経験の比較

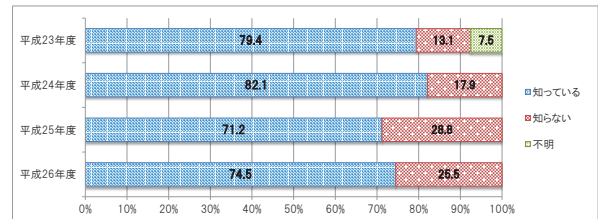


Figure15: 保護者の奨学金認知の比較

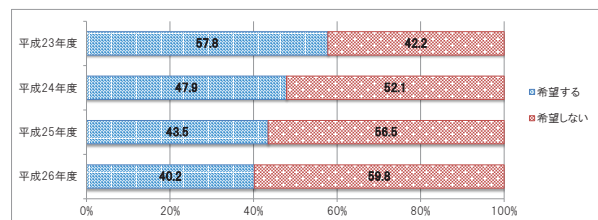


Figure16: 保護者の奨学金希望の比較

人によって知っている奨学金の数にはばらつきがある。

奨学金の希望の割合は、今年度は「希望する」40.2%、「希望しない」59.8%となっており、昨年度の「希望する」43.5%、「希望しない」56.5%に比べると、希望する割合は 3.3 ポイント減少していることがわかった。過去 3 年と比較した場合、年度ごとに希望する割合が減少してきており、平成 23 年度に比べると 17.6 ポイント減少している。平成 23 年は東日本大震災があり、緊急支援を含め奨学金のニーズが高まったことが予想される。

#### 学生寮への入寮希望

さらに、生活支援として「学生寮」に焦点をあて、入寮希望状況について、「奨学金の受給経験」「世帯年収」「入学後の暮らし向き」との関連からみていく。

新入生の学生寮の認知と、奨学金の受給経験の有無との関連を調べた結果が Figure17 である。

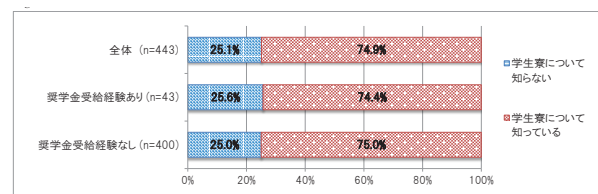


Figure17 新入生：学生寮の認知と奨学金の受給経験

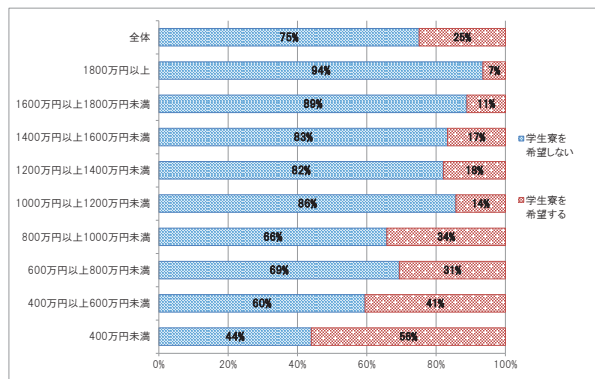


Figure18 保護者：世帯年収と学生寮への入寮希望

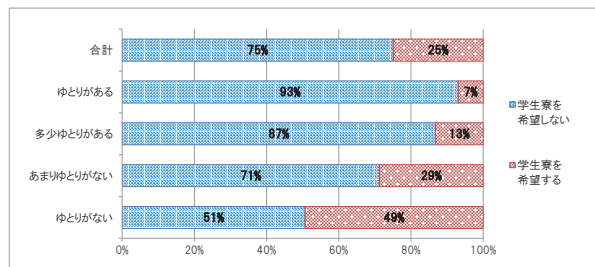


Figure19 保護者：入学後の暮らし向きと学生寮への入寮希望

その結果、全体では74.9%の新入生が大学奨学金について認知していることがわかった。昨年度と比べて、全体の割合では大きな変化はみられなかった。

続いて、世帯年収と学生寮への入寮の希望の関連を調べた結果がFigure18である。

その結果、世帯年収が少ない場合は、学生寮を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、学生寮を希望する割合が低いことがわかりました。学生寮の希望する割合が半数を超えるのは、昨年度は年収400万円以上600万円未満の52%でしたが、今年度は400万円以下の56%となっています。また、家計支持者の年収との関連についても、世帯年収と同様の結果となりました。

最後に、入学後の暮らし向きと学生寮の希望の有無に関連を調べた結果がFigure19である。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が低いことがわかった。

#### 学生寮について過年度との比較

新入生の学生寮の認知について、過年度と比較したものがFigure20である。

新入生の学生寮を認知している割合は、「知っている」74.9%、「知らない」25.1%となっており、昨年度の「知っている」76.4%、「知らない」23.6%に比

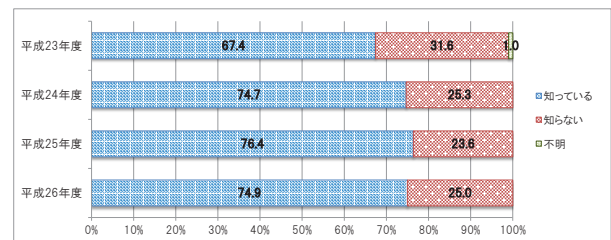


Figure20: 新入生の学生寮認知の比較

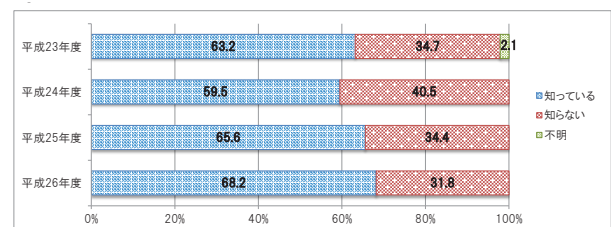


Figure21: 保護者の学生寮認知の比較

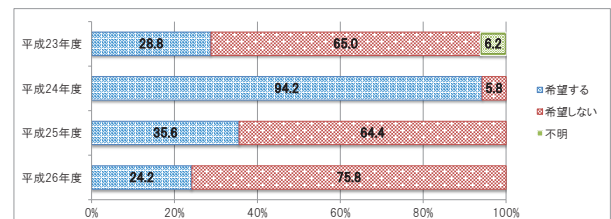


Figure22: 保護者の学生寮希望の比較

べて、大きな変化は見られなかった。過去3年と比較した場合についても、大きな変化は見られないことがわかった。

続いて保護者の学生寮の認知と学生寮の希望について、過年度と比較したものがFigure21とFigure22である。

保護者が学生寮を認知している割合は、「知っている」68.2%、「知らない」31.8%という結果になりました。過去3年と比較した場合に、今年度の学生寮の認知の割合が一番高いことがわかる。

保護者が学生寮を希望する割合は、「希望する」24.2%、「希望しない」75.8%となっており、昨年度の「希望する」35.6%、「希望しない」64.4%と比べると、希望する割合が11.4ポイント減少していることがわかる。過去3年と比較した場合について、平成24年度以外は毎年30%前後の割合で、学生寮を希望している。学部生対象の学生寮のうち、お茶大SCCは申込時に、自宅からの距離による制限はありませんが、所得による制限がある。また国際学生宿舎は経済的困窮度の高い者から入寮の許可していることもあり、必ずしも希望する者が全員入寮できるとは限

らない。入寮を希望していながらも、入寮ができなかった学生への支援が必要とされる。

#### おわりに

本学の平成 26 年度の新入生は、前年度、前々年度同様、都内を中心に「実家」「アパート・マンション」「学生寮」から通学を予定する者が多く、アパートやマンションの家賃は「毎月 5?9 万円台」が一般的であることがわかった。また、入学後の 1 年で頑張りたいのは、「大学の授業」「友達との交流」「クラブ・サークル活動」であり、新入生は「授業や単位」「人間関係」「就職や将来」に、保護者は「就職や将来」「健康面」「人間関係」に不安を抱えていることもわかった。これまでの調査結果とは異なり、新入生では「就職や将来」よりも「人間関係」に不安を抱えている結果が示されたことは特筆すべき点であろう。

とはいえ、これまでの調査結果同様、新入生、保護者ともに、大学には卒業後の進路に関する支援活動を特に期待していることも明らかになっている。

奨学金については、昨年度と比べ大きな変化は見られなかった。過去 3 年間のデータと比較すると、新入生の奨学金の認知、保護者の奨学金希望、保護者の奨学金認知は減少している傾向にある。また、日本学生支援機構の全国調査と比べて、保護者の奨学金の認知は高いが、新入生の認知は低い傾向にある。

JS コーポレーションの「高校生白書」(平成 25 年)によると、「出願検討時における学費面の考慮」という質問に関して、複数回答で「自宅から通える学校を選択した」(39.4%)、「できるだけ学費が安い学校を選択した」(21.0%)、「奨学金や学費支援制度が利用できる学校を選択した」(17.8%) という回答が上位になっている。このことから、出願を検討する段階から、奨学金制度についての情報を発信する必要性があると考えられる。受験を希望する高校生に対して、本学でどのくらいの割合の学生が、奨学金を受給しているかといったデータは、ぜひこの新入生調査を参考にしてほしい。

学生寮についても、昨年度と比べ大きな変化は見られなかった。過去 3 年間のデータと比較すると、新入生及び保護者の学生寮認知は進んでおり、新入生の約 75%、保護者の約 70% が認知している。保護者の学生寮希望は減少の傾向にあるが、毎年 30% 前後の割合で希望がある。

近年、学生募集、グローバル人材育成、留学生の受け入れ増加といった側面からの学生寮の新設が相次いでいる。SCC のように学生の人間形成を目的とした教育寮の他にも、留学生と混住することで日本人学生は寮にしながら留学を体験できることも、魅力の一つである。しかし、私立大学を中心に新設の学生寮は寮費が高くなる傾向にあることも、また事実である。共有で使用可能な設備、備え付けの家具家電、食事の提供等は寮によって異なるため、一概に言うことはできないが、寮費の高さから希望していても入寮を断念することにもなるだろう。学生にとっては学生寮を選ぶ際に、選択肢が多くあること、各自の学生生活に合った寮を選ぶことが重要であると考えられる。

#### 参考文献

- ・お茶の水女子大学 (2011) 「平成 23 年度 新入生の生活に関する調査」
- ・お茶の水女子大学 (2012) 「平成 24 年度 新入生の生活に関する調査」
- ・お茶の水女子大学 (2013) 「平成 25 年度 新入生の生活に関する調査」
- ・JS コーポレーション (2013) 「高校生白書」
- ・全国大学生生活協同組合連合会 (2013) 「第 48 回 学生生活実態調査の概要報告」

※ 本調査の報告書は、TeaPot から PDF 形式でダウンロードいただけます

<http://hdl.handle.net/10083/56686>

※ 報告書の一部は、学生・キャリア支援センターホームページ内「調査結果のご報告」にて、「Research Report」として紹介しております。

[http://www-w.cf.ocha.ac.jp/student\\_support/](http://www-w.cf.ocha.ac.jp/student_support/)

2015 年 2 月 5 日 受稿